

## 議事録

項目	第1回 水前寺江津湖公園利活用・保全推進協議会 環境部会
協議日時	平成30年7月23日(月) 14:00~16:30
協議場所	市役所 本庁舎 11階会議室
協議者 (敬称略)	<p>熊本大学大学院 先端科学研究部 環境保全分野 准教授 皆川 朋子(部会長)</p> <p>熊本県立図書館 学芸調査課 課長 丸山 伸治</p> <p>(一社)熊本市造園建設業協会 水前寺江津湖公園サービスセンター所長 中島 憲久</p> <p>熊本県文化協会 理事 轟 多朗</p> <p>熊本記念植物採集会 副会長 奥村 智治</p> <p>熊本野生生物研究会 事務局企画担当 歌岡 宏信</p> <p>自然観察指導員熊本県連絡会 事務局長 田畑 清霧</p> <p>日本野鳥の会熊本県支部 副支部長 坂梨 仁彦</p> <p>水と緑ワーキンググループ 代表 大住 和子</p> <p>幹事(関係課16課)、事務局(公園課)</p>
<p>&lt;次第&gt;</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 部会員紹介</p> <p>3. 議題</p> <p>(1) 環境部会について</p> <p>(2) 水前寺江津湖公園の現況について</p> <p>(3) 旧砂取邸庭園及びサウンディングについて</p> <p>(4) 次回の部会について</p> <p>4. 閉会</p> <p>【議事録】</p> <p>●熊本大学の皆川と申します。私は河川、水環境の保全、復元に関する研究を行っています。熊本県と、白川の河川改修や宮崎県の干潟の再生等を共同で行っています。江津湖につきましても、2年前くらいから、学生さんと、特に外来種の研究を行っています。菊池川ではブラジルチドメグサ、ナガエツルノゲイトウがどういう場所だったら侵入・拡大しやすいか研究を進めています。生物多様性の保全や外来種との関連性を考えた上で、様々な整備をしていく必要があると考えております。様々な方と情報共有し合いながら、様々な案を出して、市民の財産となる江津湖の整備を行っていただけたらと思います。(皆川部会長)</p> <p>2. 部会員紹介</p> <p>●熊本県立図書館から参りました丸山と申します。平成28年1月にリニューアルオープンしました、くまもと文学・歴史館という図書館付属の博物館を担当しております。館のほうでは、県の施設ということで、県全域の文学や歴史を対象にはしていますが、地元の江津湖の文化的価値の顕彰もひとつのテーマとしてやっています。よろしくお願ひいたします。(丸山委員)</p> <p>●水前寺江津湖公園の中島と申します。水前寺江津湖公園は指定管理業務で、市造園建設業協会管理を行っておりまして、平成24年に1期目の指定管理業務、現在2期目、トータル6</p>	

年目の業務を携わっております。各分野の方々いらっしゃると思いますので、いろいろと勉強させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。(中島委員)

- 文化協会からきました轟と申します。文化懇話会というのがありまして、そこに環境文化部会というのがあります。できてから、30年以上になります。環境だけではなくて、環境文化という視点からこれまで活動してきました。よろしくお願いいたします。(轟委員)
- 水と緑ワーキンググループの大住です。小学生を対象に水質調査や観察会を行っています。よろしくお願いいたします。(大住委員)
- 日本野鳥の会熊本県支部の坂梨と申します。江津湖は1980年代のカモの大騒動の頃から関わっており、カモを1万羽数えるのに四苦八苦したのが、最初の思い出です。どうぞ、よろしくお願いいたします。(坂梨委員)
- 自然観察指導員熊本県連絡会の田畑と申します。子どもから大人の方までと一緒に自然観察会という形で、自然に親しむ活動をやっております。よろしくお願いいたします。(田畑委員)
- 熊本野生生物研究会の歌岡と申します。主に動物の立場から江津湖に関わっております。よろしくお願いいたします。(歌岡委員)
- 熊本記念植物採集会の奥村と申します。採集会では、月に1回県内各地の植物の観察会を行っています。年に1回、県外の調査も行い、レッドデータブックの編集、色々な活動を行っています。よろしくお願いいたします。(奥村委員)
- 本日これから議事に入りますが、まずはじめに議事録の確認をしていただく方を決めさせていただきます。本日は議事録のほうについては、事務局で作っていただくんですけども、その確認を丸山委員と奥村委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。それでは議事に入りたいと思います。議題一つ目の環境部会についてお願いします。(皆川部会長)

～資料1説明～

- ただいまの説明に関しまして、質疑等ございましたら、よろしくお願いいたします。(皆川部会長)
- 計画策定ということで、事業計画のスケジュールの一番上に、青で書いてありますが、部会の役割は短期、中期、長期の20年に及ぶ計画を策定するというのでよろしいでしょうか？(皆川部会長)
- そのように考えております。ただし、一年間かなり密な議論になりますので、ある程度の方角性を見据えながら、短期施策もリンクする形で計画を策定していきたいと思っています。あくまで20年をベースに計画は考えていきたいと思っています。(事務局)

- 皆さんご議論いただくときに、長期的なことを見据えた上で、短期と中期の計画についてご議論いただければと思います。もう1点、この委員会と同時並行で、緑化フェアの基本構想を検討する委員会が行われていると思いますが、そちらのほうとの齟齬があってはいけないと思いますので、説明いただけますか。(皆川部会長)
- 緑化フェアでは基本構想を今年度策定する予定としておりまして、1回目の検討委員会を6月に開いております。2回目も8月に開催しようと考えていますが、今年度策定します基本構想というのは、緑化フェアをいつ行うのか、また会場をどこにするのか、あとは一番大事な開催意義です。そういった目的等を考えていくというものですので、それについては逐一こちらの部会であったりとか、江津湖の協議会と情報共有を図りながら、また、次年度以降に、基本計画、実施計画ということで、具体の計画を策定していきますので、そこも調整を図りながら進めていきたいと思っております。(事務局)
- そこでも、構想等が出てくる、方向性とかが出てくると思いますので、こちらの意見をぜひそちらにあげるような仕組みがあったらと思います。(皆川部会長)
- 現況の把握というところなんですけど、どこら辺まで把握するかというのがあると思うんですけど、たとえば電車通りの下流くらいには、水の中に淡水こう藻類があるんです。オオイソウとか、そういった貴重なやつを把握するのか。あるいは、昆虫類というものは全く抜けていますよね。その把握の段階において、そういった方々にもヒアリングを行うのかどうかと考えます。(坂梨委員)
- まずは、エリアにつきましては、緑で囲っていますところ、これは水前寺江津湖公園一帯なんですけれども、基本的には一帯全体で考えていきたいと思っております。現況についても、まずはベースとして全体を把握した上で、今後具体的に、どのような施策をしていくのか、保全するところ、利活用していくところ、色々出てくるかと思っておりますけれども、エリアエリアで顔が違いますので、そういったゾーニングを今後深めていきたいと考えています。今おっしゃいました昆虫だとか、抜けているような視点が今後出てくるようであれば、個別にヒアリングをしたり、環境部会の中でご意見をお伺いしたりということで、今後進めていきたいと考えております。まず、ベースを把握するといえますか、それぞれ専門でされてますけれども、ここにおられる30名、まずは情報を共有して、ベースをある程度合わせた上で、議論を展開したいと考えておりますので、全体的に及ぶようなことをまず、今日の場でお話できたらと思っております。(事務局)
- 現況といたしましても、今いるというようなことだけではなくて、過去から現在までどういったものが、損なわれてきたかということが、もちろん出発点になると思いますので、その辺も含めて、課題が出てくることになると思います。ここで出なかったことについては補足していくということで、他にございますでしょうか。また質問等がありましたら、出していただければと思います。それでは、現況について、資料2をお願いします。(皆川部会長)

～資料2説明～

- 2年ほど前に、くまもと文学・歴史館が開館しております。その時に、2枚の周辺マップのパネルをつくって、それが評判よかったものですから、印刷物にして、皆さんにお配りして

おります。2枚の図というのが何かというと、1枚目の図は、城下町と周辺のマップです。今私たちがいるこのエリアというのは、お城から白川にかけての、いわゆる城下町なんですが、江津湖、水前寺の地区というのは、そこから離れた場所なんですけれども、当時の江戸時代の都市計画というとおおげさかもしれませんが、場所の使い方というのが、明確に違います。たとえば、江戸時代の細川家の藩主で有名な細川重賢という殿様がいますが、あの方の日記が保管されており、中身を見ることができます。藩主は、江戸と国元の熊本を行ったりきたりしてるんですが、国元に帰ってきて、ちょっと遊びに行くときは、水前寺のお茶屋にいかれるんですね、そしてその日記を見てみると、鷹狩りをされてですね、今日はカモを何羽とったとか、そういったものを記録しております。こんな感じで、城下から離れた湧水があるところを活かした、まさに別荘地として使われてます。ですから、水前寺江津湖地区というのは城下と違った機能を果たした場所であると、そういう視点もひとつ必要なのかなというふうに思います。水前寺成趣園は、本家の細川家の別邸、そして文学・歴史館、図書館があるところも最近、細川藩主の家の庭であると判明をしております。それから神水苑、細川家の一門の屋敷であるとか、有吉家という家老家の庭園もある。そういうことで、別荘地が立ち並ぶような場所であるということ、それは、江津湖というのは、自然豊かで、そしてある意味、二次的な自然ということで、野鳥とか、いろいろな生物の住まいになっていると思いますが、そういう使われ方をしていた場所であるということが、基本としてあるのかなという気がします。そこで、二次的な自然ということで、いろんなことが行われてきたと思うんですけれども、たとえば、水前寺もやしも豊かな湧水を活かして作られていると思いますし、自然のうえに人間の文化活動がある、こういうものをしっかり抽出して、しっかり活用していくようなこともあっていいのかなという気もします。そして江戸時代は、殿様の憩いの場所であった、そして近代から現代に至って、段々と一般の方に開かれていった、そういった地域的な憩いの場として変わってきた。その変遷を活かした上で、この場所の利活用がされたいと思います。ちなみに、私どもで、ある展示をしたときに面白い資料が出てきまして、幕末のペリーがやってきた頃の話なんですけど、水前寺江津湖で花火をあげてるんですね。火縄銃などの火薬を使う人たちが、藩主とか一門の方たちにみせるために打ち上げたりしている。今でも江津湖の花火大会がありますけれども、あの当時からああいったことをやっていたということですね。洗い出せばいろんな文化的資源があると思うので、ぜひそのあたりを活かしていただければと思います。それからもうひとつ作ったマップが、成趣園の上から、江津湖方向を眺めた図です。あんまりこういうアングルの地図っていうのはないんですけど、私たちが館でマップをつくるときに、水でつながっている場所、上流から下流にかけて、成趣園をたとえば起点にして、江津湖にかけてずっと流れているわけですが、このあたりもつながっているものとして活かしていかなければというふうに思いました。たとえば、明治の文豪の漱石は、成趣園を出て砂取橋あたりから舟に乗って、舟遊びをしていて、そして、そのことを東京に戻ってから10年くらいたって、熊本で一番印象に残った場所はどこですか、といわれたときに、この場所が一番自分が気に入った場所だと、すごく気に入った場所だとそういうふうに言っています。ですから、まさにこの水系につながったところで、日本を代表するような文豪が熊本で一番気に入った場所であるといっています。そういう意味でも、一体として、これを活かしていければというふうに思います。(丸山委員)

●たしかに江津湖の歴史を知ると、これがどういう形でできあがったのか、例えば花火は以前

もあがっていたという、今もここで花火大会をやっていますけれど、何かしらそういった縁も感じるのかなと思いますし、江津湖の句碑がかなりたくさんあると、それも自然を詠った句とか、やっぱり江津湖だからこそできた文化というものもあるかと思いますので、そういったものを一緒に知っていきながら、またそれをどううまく発信していくのかということも大事であると思います。続けて、2番目の熊本市造園建設業協会さんからお話いただければと思います。(事務局)

●水前寺江津湖公園の管理なんですけれど、動植物園と庄口公園、図書館と体育館の建物の中は管理外になるので、それ以外の管理をしております。今回、環境部会ということなので、環境の話をさせていただこうと思います。通常は、植物管理というものをやっているんですけども、希少種の保全というポイント、一番下流の広木地区の一番端っこに自然観察園というのがあって、そこでキタミソウとミズアオイ、その保全活動を昨年からは専門のスタッフを一人つけて行っています。皆さんもご存知だと思いますけれど、指定管理業務だけでは足りないものもあって、市民ボランティアの方々にもご協力いただいて、水草や外来魚の駆除とかをやっているところでございます。また、江津湖ピクニックとかえづっ子塾といった活動は、基本的にはお子様連れとかご家族に向けて、江津湖の魅力を発信するという目的でやっているんですけど、毎月1回行っているえづっ子塾、目的としては江津湖の魅力、自然だったりとか、歴史的なこと、文学的なこともできるだけPRできるようにやっているんですけど、文学的な部分というこのPRはなかなか難しく、実際魅力としては、その先ほどお話があった旧細川邸庭園とか、成趣園とのつながりだったりとか、自然環境以外の部分の魅力というのも十分あると思うので、そういったところをこれからPRできたらいいなと考えているところではあります。(中島委員)

●続けてやるよりは、質疑とかあったらその都度いただきたいと思います。県立図書館さんや熊本市造園建設業協会さんの今のご説明に対して、お聞きしたい点などがございましたら、ご意見等いただきたいと思います。(皆川部会長)

●江津堤って、江戸時代につくられたんですか。(坂梨委員)

●清正がつくったとか色んな説があるんですけど、その辺はよく分からないと思うんです。分からないんですが、いずれにしてもあの広大な湿地帯があるところにある時期に、水をコントロールするために堤防がつくられて整備されたと思います。(丸山委員)

●その前は、氾濫原、小さな川だったんですか。(坂梨委員)

●湿地帯が広がっていたと思いますけれども、無田とか中無田とか湿地にちなむ地名がありません。(丸山委員)

●他にありませんでしょうか。キタミソウとミズアオイということですけど、あそこに今も生息しているんですか。(皆川部会長)

●そうですね、今も生息しています。ミズアオイは聞く話によると、江津湖の水位が上がってしまってもともとある場所が水没し、人間の手を加えないと生育が難しいということなので、同じ広木地区内に移植地をつくって繁殖させ、ちょっとずつエリアを広げています。良し悪しいろいろな考え方はあるとは思いますが、そういう形をやっています。(中島委員)

- あと、ヒラモも移植しているところがあると聞いているんですけども。(皆川部会長)
- ヒラモの保護区域は園内色々あるんですけども、うちのほうで特に意識して何か作業は行っておらず、あえてさわらないっていうのは意識はしていて、それ以上は特には。(中島委員)
- それではだいたい2種類。(皆川部会長)
- そうですね、具体的に活動しているというのは。(中島委員)
  
- はい、次に熊本県文化協会さんからお話しをお願いします。(事務局)
  
- 轟です。私が属しています環境文化部会の考えと、今までやってきたことを踏まえての話をさせていただきます。この環境文化部会の活動の中では、人間の生活活動と自然環境の在り方について考えてきたつもりですが、環境と言われてもどこまでが環境で、何が環境なのかと言いだしたらきりがなくなります。その中で、人間と人間の関係も環境ではないかと発言したこともありました。普通に環境について話すとき、誰の目から見た環境なのでしょう。多くは、人間の目から見た環境で話しますが、ここにいらっしゃる方々のように、専門的に鳥の目であったり、樹木の目であったり、虫の目であったりすれば、環境の見方も変わってくるし、捉え方も変わってくるでしょう。私たちがやってきたのは、そういうものも踏まえて、環境文化という名前がついていますから、色んな自然環境もあれば、人間の環境もありますが、それぞれが色々な形で関係し育まれて、形を変えてきたものが環境になっているのだと思います。活動の一つに、27、28年くらい前から、これも三浦先生の発案で、熊本県水環境会議が始まりました。熊本の5つの団体、江津湖研究会、ホテルを育てる会、青年会議所、地域婦人会連絡協議会、環境文化部会で、毎年1回持ち回りで順番にやっており、現在も続いています。そのテーマは、自然環境と人間の生活活動との関係を軸として、それぞれの団体の活動に即した企画で催されてきました。テーマの枠組みは、とても柔らかいものでした。環境という視点からみれば、専門的な話し合いとともに、多くの人に感心を持っていただくとか、実際に見てもらおうということが大切なことだと思います。そのような提案も欠かせないと考えています。この部会には、各分野の専門の方々揃っていらっしゃいます。他の部会との関係上、この部会の役割をある程度明確にして進めていただければ、より分かりやすいかと思えます。(轟委員)
  
- 下地づくりは重要だと思いますし、これから短期的な目標、中期的な目標、長期的な目標を立てていく上では、やはり下が支えになってくると思いますので、具体的なメニューとかが、これからどうしていこうという話しに今後、今日になるかもしれませんが、次になるかもしれませんが、そういうことも、重要なテーマ、課題として出てくるんじゃないかと考えております。(皆川部会長)
  
- では、続きまして、熊本記念植物採集会さんについてお話しいただければと思います。(事務局)
  
- 熊本記念採集会では、江津湖で何回か例会もやっていますし、研修会も行っております。この間のヒアリングのときに言ったんですけど、まず緑化フェアという名前が、どうもしくくりこない、これ変えたらどうかなと言ったんですが、それはなかなかできないと、じゃあサブテーマを、江津湖なり、立田山なり、白川、その辺まで含めた水をテーマとした何かか

できればいいんじゃないかなというふうな意見を言いました。それから先ほども出てきました、ヒラモとか、キタミソウとか、話がありましたが、ヒラモなんていうのは、水の中にある一般の人から見れば水草なんですね。花も綺麗な花が咲くわけでもないし、キタミソウにしたって、こんなちっぽけな植物なので、ああいう植物をメインにしてしまうと、一般の観覧者は何って思うので、そういう植物もあるよ、それから外来植物もたくさんありますよというようなことをテーマにした自然観察会を江津湖なり、立田山も含めて何かやることで、いろいろ保全活動ができるんじゃないかと思います。前回のグリーンピックでは150万人の参加者が来ているとのこと。今回はもっと多くなるかもしれない。そういうたくさんの参加者に、参加者が何を求めてくるのかですよね、キタミソウの話をしたところで、何って思われるかもしれないので、保全活動や自然観察会をやると、そういった活動をやってる方なり、たくさんいますので、拠点となる場所が江津湖の植物園あたりが一番いいかと思うんですが、そういう場所を置いていただくと定期的な観察会ができるのではないかと。江津湖の外来植物については、市の方で、駆除活動を行っているわけですから、どこに何があるか調べればわかるはずなんですよ。それは希少植物にしても、色んな団体が調べているし、河川の方でも、加勢川流域とかで、調査報告書も出ていると思いますので、そういう調査報告書を調べてやったほうが、的確な情報が得られるんじゃないかなと思います。150万人、200万人の人が何を求めてここに来るのかということをはっきりと考えておかないと、ただのフェアになってしまうんじゃないかなとそうになってしまうと失敗だろうと思います。(奥村委員)

●緑化フェアは基本構想の検討委員会を行っており、そちらと連携をさせる形で、情報共有をしていこうと考えています。今回のこの部会というのは、江津湖の利活用・保全ということで、緑化フェアは短期的な位置づけということもごさいますが、どちらかという、長期的な見方で皆さんで知識を共有させていただきたいというふうに思いますのでよろしくお願いいたします。(事務局)

●今おしゃられたように、熊本市がこれまでに行った調査結果や国交省の調査結果を収集して、1984年の段階だと何種くらい確認されて、今どのくらい減ってきているのかということと2年前に整理させていただいたことがありますので、またそういう経緯についても、情報を共有して話し合ったほうがよいと思いました。博物館さんのほうでも色々情報をお持ちだと思いますが、いかがでしょうか？(皆川部会長)

●現状は情報がありません。さも当然のように外来種が増えて、在来種が減っているというようなことを言われてますけれど、そもそも基本的なデータがほとんどないに等しいんですね。たとえば、江津湖でだいぶ前に調べられた調査で、江津湖の動植物が600種、皆がもう600っていう数をつかってますけど、ざっとうちにある標本だとか、私が見たもので、あれもいるこれもいると数えると、昆虫だけで800弱あるんです。そして、その魚とか他のもの、植物、菌類、そういうものを含めると1000を軽く超えるんですよ。だからその基礎的なデータというものどっか集積するというか、江津湖はなかなか、特に魚に関しては、調査がしにくかったりという面もあるんですけど、何らかの基礎的なデータというものを皆で共有する必要があるのかなというのは思います。(博物館)

●私のほうもちょっと前に調べたものでは、植物の確認種だけでも1984年から2014年までの間に68種から36種くらいに減少してます。かなり抜けているところもあると思

ますが、半減していることは確かだなという感じは、公園の整備等の状況からも言えるのかなと思います。そういった情報も共有して、現況はどうかのっているかという情報を踏まえて、考えたほうが良いと思っています。先週、外来種の分布を把握するために現地を見ましたがナガエツルノゲイトウが爆発的に増えていました。これから結果を整理して情報を提供させていただきたいと思っております。(皆川部会長)

●今、皆川部会長がおっしゃられたように、市で調べたものもありますし、またそれだけで不足するというのであれば、この部会の中でこういった調査を行う、それが計画のひとつの指標としていいかと思いますので、そのような点も含めて議論を深めていきたいと思っています。それでは、続きまして、熊本野生生物研究会さんからお話いただければと思います。(事務局)

●熊本野生生物研究会ということで、実は動物だけではなく、植物も研究して扱ってる仲間もたくさんいます。先ほど少しお話があった、藻類、水の中にある原始的な植物というのは、藻類なんかも研究している仲間もおりますし、もちろん昆虫をしっかりと見ているそういう仲間もいます。ですから、何を取り上げてここに書くかというのはとても難しいところで、それはおそらく今後保全していくときに、目玉になるものがひとつだけあるにしても、自然の生態系はトータルでみるものなので、たとえば生物多様性が保障される形の環境部分を、ちゃんと生き物のために残してやるとか、そういう場所をやはり、ここにはゾーンというふうに書いてますけど、そういうエリアをつくってあげるということも大切なと思います。先ほどから人間生活との関わりで江津湖があるというお話を何人もの方がされています。もともとは何もない湿地で外は葦原だったと思うんですけど、そこに堤をつくって湖ができて、水田もたくさんあって、里山のような田園の光景の中から今の江津湖ができていると考えると、やはりできたらそうしたものをもう1回取り戻せるようなきっかけにして、ちょっと今見えなくなってるけれども、先ほどから守られてこられたミズアオイのお話であったり、ヒラモだったり、それだけじゃなくて、そこにメダカもいたりとか、ドジョウもいるよとか、そうした場所をうまく作りだして、子ども達にもそれをずっとみてもらえるような形になっていけたらいいのかなと今までのお話を聞いて感じているところです。まだ、主を絞るのはちょっと早いという気がしまして、自然全体をみるという形で、このあと計画を進めていただければと思います。以上です。(歌岡委員)

●この間、江津湖の下江津、上江津全部歩いたんですけど、子ども達に見てもらえるところがなかったですね。保全地区はあるのかもしれませんが。何かご意見等ございますでしょうか。補足とか。博物館さんのほうで、コメント等ございませんか。(皆川部会長)

●カヤネズミをここであげていますが、何か皆で活動する上では、象徴的な指標となりうるものをあげていてもいいのかなと、そういう意味ではこのカヤネズミっていうのは、人間生活の攪乱を受けやすい動物なので、カヤネズミあげておいてもいいのかなと思います。当然いろいろ検討した上でだと思いますけれども、こんなんであったり、生態系の頂点にあるような、江津湖みても、肉食の鳥って結構多いんですよね。アオサギとか、カワセミとかサギ類非常に多いです。あれだけの固体数が、いっぺんにみられるっていうのは、当然それを支える命があって、またえさとなる動物の命と考えると、そういうものを象徴としての種としてあげていてもいいのかなという気はします。(博物館)



●そうですね。ありがとうございました。たぶん追々そういう議論が活発になるのかなと思います。(皆川部会長)

●続けて、自然観察指導員さんについてご説明をお願いします。(事務局)

●自然観察指導員熊本県連絡会ですけれど、江津湖に限らず、熊本県内にメンバー散らばっております。自然の観察をすることで、自然との距離感、関わり方が適切にできるような、そういった人たちがいっぱい増えてほしいなど、その結果、自然が守られればという活動をずっとやってきております。江津湖でメンバーは、30~40年前から活動しているものもいれば、最近になって活動しているものもいるということで、注目してきている場所です。ここまでのお話を伺いながら、トータルのタイムスケジュールを改めて今、先に確認したくなっています。短期、中期、長期をどう考えていくのか、緑化フェアは関係はあるけど、この話の中心ではないというお話もあったとは思いますが、目先にあるどうしても気になります。非常に心配してます。ここまで厳しい状況に陥ってしまった江津湖がさらにひどくならないかと心配しております。以前の素晴らしさを思い起こすと、最近でも他所と比べたら圧倒的にいい自然環境と思うんですけれど、昔と比べたら悲惨な状況になっている。あちこちの都市に身近な水辺が大事にされているところがいっぱいありますけれども、単に水があるだけじゃなくて、生物の多様な状況がある水辺を持っている熊本は、ほんとに誇れる素晴らしいところだと思うんですけれども、そういうながらも悲しい状況にある。長期的なものを先に考えて、それに向けて中期、短期を考える。たとえば、目先に迫る緑化フェアは長期の目標を崩さないような形で開催を考えていただきたい。先にまず近い日程をしっかり検討し、終わってから中長期を考えていたら作戦は立たないよとなるんじゃないかなと思う、先に言わせていただきました。

江津湖の特徴をしっかり把握というのは大事かと思うんですが、特に江津湖に関しましては自然環境が急速に近年失われてきている。生物にしましても、環境にしましても、大きく変わっている。何が変わったから生き物が減ったのか、どこに手を入れたからこんなになっちゃったのか、そういう部分の検証なしに計画とかそういう形をやっても難しいでしょう。ちょっと我慢すれば以前の状況に戻れそうな場所もまだいっぱいありますので、今がスタートラインではなく、何年も前のまだ戻せるような状況あたりもちょっと検証しながら、この辺戻したいねというようなところは戻し、利用の面で安全性を確保しながら、変えたいねというところは変えるみたいな形でのゾーニング、今だけを見ない形で、未来を見据え、過去の情報を集めた上でのゾーニングというのを、長期的な視点を持ちながら、最初に検討いただきたいと考えております。その中で、一番気になります部分が、江津湖の魅力っていうのは生き物がいてそこで人々が触れ合えるということでしょう。人が遊んでいるところに魚が泳いでいる、子ども達が水遊びしていたら足元を何かちょろちょろいくというようなことが大きな魅力だと思うんですけれども、生き物たちからしますと、ここは人間のゾーン、ここは生き物のゾーンとやったとしてもわかりません。人の姿がみえたら、彼らは警戒していなくなる。ここは生き物の優先のゾーンだよといっても、行きやすかったら入っていきますので、ルールを守らない人が入っていったら生き物はいなくなる。人が行きにくくて、生き物がほんとにいてくれて、そこで繁殖もしていて、人の活動が活発な花火大会のときに逃げ込めるような場所があれば、他のときにそこから出てきてくれるので、出てきた生き物と我々

が触れ合える。一昔前の江津湖と何が一番違うのかって思いますと、人が入りにくい、なかなか立ち入れない場所が激減してしまった。葦原にしましても、残してはありますが、薄いし狭いしつながってない。行こうと思えば隙間にどんどん行けて、その横を犬の散歩までしてらっしゃる。上江津側の図書館の下のほうにしても、水の中をジャブジャブ歩かないと立ち入れなかったゾーンに階段が整備されたり、周辺の木が切り払われて、明るくて、何でもみえるようになってしまったりとかいうのが、最近の災害復旧でもおきています。誰も見えて、誰もが近づけるようになりますと、結果的にしばらくするとそこに生き物はいなくなります。そうすると人と触れ合っほしいゾーンにも生き物がいなくなるというのが、急速に進んでいるように思います。単なる使い分け、ここは何につかう、ここは人が入らないのではなく、行きたいと思ってもよほどの覚悟がないといけないというゾーンが複数ほしい。最近それが一番失われているということが、江津湖の問題ではなかろうかなと思っています。上江津も下江津もですが、動物園側の岸は、人は昔から歩けたのに対して対岸は歩きづかったのが、今は歩きやすく、両方よくみえます。両方からみえると、生き物は真ん中の川から逃げるんですね。片側が藪だったら、多少近くても逃げない、両方に犬や人の気配があったら逃げる。影がなくなったら逃げる。彼らが避難する場所、繁殖する場所というのも非常に減ってきております。これに関しましては、動物園のゾーン、先ほどもちょっとありましたけれど、その一角あたりをうまく使えないでしょうか。他の施設も含めながら、民間のエリアも含めながら何かやっていけないかなと思います。そういう避難するところがあると、人が利用するゾーンも生き物が利用できる。人の利用だけを考えると、気がついたら何もいなくてただの水辺、どっかの都市と一緒にということになってしまいますので、それだけは避けていただきたいなと、あちこち観察しながら思っております。

もう1点が外来生物に関することです。江津湖は在来種の何が残っているかわからないところがいっぱいですが、外来種がほんとに増えてきています。単に江津湖に外来種が多いだけではなく、熊本県エリアとか、もっと広く考えたときに、外来種が最初に江津湖で増えて、周りに広まっていくといった現状がいろんな動植物で見られています。江津湖は湧水ですので、色んな生物が生きやすいという、いいところだけれども悲しい水域です。人が関わりやすいので、放したり、植えたり、といったこともいっぱいあっております。そういうことがあって、江津湖で増えて、そこから広まっていつている、細かい調査はされていなかったり、わかっていなかったりしていますけれど、最初の発見が江津湖であったり、他所で発見されて次に江津湖で増えて、さらに次の場所ってということも聞いております。江津湖での外来生物の扱いとは、他の地域以上に頑張らないといけない。先ほど、現状を把握し、過去の調査も含めながらとありましたが、ぜひあわせてお願いしたいのが、江津湖あたりに植物を植えられた過去の記録、あるいは水産系で放流をした過去の記録もあたっていただきたい。外来種を調べているんですが、10年、20年前の放流事業が絡んでいることがあるようです。他の地域以上に外来生物が入る事態が起きてしまってますので、そういう記録の拾い上げも是非併せてやっていただきたい。熊本市は広く情報をお持ちだと思いますので、いろんな部署のものもあわせていただいて、現状把握を是非お願いしたい。これだけのメンバー、いろんな部署の方が集っておられたら可能かと思い、お願いしたいと思ったところです。そのあたりを踏まえまして、江津湖のこの場所はこんなふうにとか、ここは元に戻すとかゾーンニングしていただきたい。調べるのは大事ですが、ここは何がいるかよくわからないという場所もほしい。生物は調べていけばいつまでも調べられます。新しい発見はいつでもで

できます。全てがわかるということはまずない、そういう状況ですので、わかる範囲で押さえながら、子どもや大人が遊べるようなゾーン、くつろげるゾーン、そこにきてくれる生き物がくつろげるゾーンを選定する。私たちが思っている以上に、生き物たちは我々人を警戒しています。このくらいの範囲をこのくらいの雰囲気に残しておけば、生き物もいてくれるかなと、今までいろんなところで、いろいろな人たちがゾーニングをやって、だいたい失敗しています。我々の思う以上に生き物への配慮が必要です。いろんな知恵を集め、よい形になればいいなということで参加させていただいております。特に外来生物に関しましては、今、日本中いろいろ注目されている話です。昔、国土に緑がなくなっていた時代に始まった緑化フェアに、本来の日本の自然環境を戻すフェアというふうなサブタイトルでもつけばいい。そういうことにつながる情報交換ができればと思います。よろしくお願いいたします。

(田畑委員)

- ありがとうございました。最初におっしゃっていただいた目標のところにつきましては、当然長期的な目標があってということになると思います。長期的なところに向かっていく形の緑化フェアでないとはやはり意味がないですし、江津湖でやるのであれば、悲惨な状況とおっしゃっていただいたとおりのところが、特に環境関係、環境教育や保全活動をされてる方はご存知のとおりで、たぶんそういったことも踏まえながら行っていくことで、江津湖のこれからの整備の価値があると思っております。長期的なことをまずこの場で議論し、3回の部会で第2回目の協議会でどのあたりまで持っていけるかっていうのはこれからですが、今後どういうふうにスケジュールを進めていくか、事務局のほうのお考えを教えてくださいんすけれども。(皆川部会長)
- 書いてますとおり、2回目では事業内容を考えたいと、それで3回目は素案というところがありますけれども、ただ部会も今回始めたばかりでして、まずは皆様現状をある程度知っていただいた上で、今後どのような施策を行っていくのかという展開にしていきたいと、事業内容と書いてありますけれども、さわりになる部分が現状こうだからこうと、課題がこんなのがあってこうしたほうがいいんじゃないかと、たとえば環境保全といいながらも、今を守るのか、昔に戻すのか、発展させるのか、いろんな保全の意味があるかと思ひますし、そのためには調査が足りないとか、現状、専門の方は分かるんですけども、実際利用されている方が分からないので、そういった方に発信していく、啓発とかそういったものが必要なかなと思ひます。さわりの部分くらいでもこの3回の部会で行って、2回目の協議会にかけたいと考えています。(事務局)
- 第2回ときには、課題を踏まえながら、長期的な目標を出して、中期、たぶん具体的事業内容っていうのはメニューであって、目標が決まらない限り、メニューはでてこないと思ひます。目標を決めない限りメニューは決まらないはずなので、たとえば過去から現在までの過程も踏まえる必要があります。大きな目標設定っていうのを次くらいに早めに出していかないとメニューも具体的に決まらないのと思ひますので、目標設定ということが言葉としてないので、今日を踏まえて、長期的な20年後にどういうふうに向かっているのかということ議論できたらと考えているところです。(皆川部会長)

●現況の把握のために、実はやらなくてはいけない生き物の調査が、理由もあって実際には行われていないという現実もあります。私は以前、熊本市の江津湖の環境調査の両生類、爬虫類の担当をしたんですけれど、爬虫類、それも水環境ということでしたら、カメは絶対調べなきゃいけなかったんですが、カメを調べるための罟を仕掛けかけることができなかったので、全部双眼鏡でみてまわりました。でもそれだけじゃ分からないこともあって、きちんとした調査にするためには魚も含めて、水に関わりのある動物のきちんとした調査を1回やっていったほうがいいのではないかと思います。カメもご存知のように、ミシシippアカミミガメ、非常に江津湖で増えているそういうカメもいるかと思えば、在来のカメはほとんど、かなりみてもみるることができないし、いるんだったらそのカメがどこで産卵して、繁殖しているのかというのがわかればその場所ちゃんと守ってあげたいなと思うこともあったりするんですけれども、基本的なデータがないので、魚と水の中に関する両生類、爬虫類の調査を、これはまだできていないというふうに私は考えるんですけれど、ぜひこの後計画していただけないかと思います。(歌岡委員)

●そういったものも短期的な施策のひとつだと思っています。今後、長期的なことを見据えていく上で、こういった目標を設定していくかによりますけれども、足らない調査とかあったら、それはそれで計画に位置づけてうちのほうでも予算をとって、調査を行ってその後に中長期の計画に反映させていくと、そういったのもひとつのやり方だと思っていますので、そのようなご議論をこの場も含めてさせていただければというふうに思います。簡単に我々でできる調査であればすぐにできるかと思うんですけれど、お金かけてやらないといけないというようなものがあるかと思っています。(事務局)

●そういう現状が把握できていないというのが、ひとつの課題だと思っていますので、それも入れていくということによろしいですか。(皆川部会長)

●はい。他にないようでしたら、続けさせていただきます。日本野鳥の会さんからご説明をお願いします。(事務局)

●カモの探鳥会ということを書いていますけれども、カモというのは非常にみやすいですし、日本に来るときには繁殖羽になっていて、カラフルになっていて見分けることが簡単ですので、初心者向けに非常にいいんですね。初心者向けの探鳥会を、毎年10月から3月まで月1回やっております。これはどなたでも参加できるということで、たくさんの方々にご参加いただいて、50人とか、もっとたくさん来ていただいているときもあるみたいですが、そういったのも実施しております。非常に毎回喜んでもらえるというそういう探鳥会をやっております。最近、上江津湖が多いんですが、下江津湖までは遠いんですね、どうしてかという、先ほども何人かの方からあったんですけど、ボートがどこでもはしりまわる、釣りの人がどこでもボートで入っていくということで、やっぱり人間がいけば鳥は逃げます。それが原因か分からないんですけど、実はさっきいきました1980年代に8千羽のカモを撃てという小説がかかれたのが江津湖での、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、あの頃はここに1万羽以上のカモがきておりました。そして下江津湖のほうを数えるのに3、4時間かかって数えてたんですけど、今は下江津湖は千羽くらいです。ですから10分の1くらいになっています。また上江津湖に千羽くらいいます。今は2千羽程度なんですけれど、原因は分からないんですが江津湖のカモは激減しているという状況にあります。

カワウのねぐらと書いていますが、中ノ島にカワウがねぐらとってるんですけど、本来は

九州はいなかったんですが、これも人間との関わりで、鮎の放流に伴い全国に広がったということが言われておまして、カワウが広がっているところで被害を与えるようになって、有害鳥獣駆除の対象となっております。たぶん近々繁殖し始めるんじゃないかというふうに思っております。カワウがここで繁殖し始めますと、フン害によりまして、中ノ島の植物が枯れてしまうと考えられます。ですからそのあたりが問題かなと思います。

ササゴイの撒餌漁というのは、ササゴイというサギの仲間なんですけど、撒餌をするんですね。ハエをオイカワの目の前くらいにぽつんとおくと、それに反応するんです。その波に、波紋に反応したオイカワを捕まえて食べるという、非常に高度なテクニックを持った行動をするんですね。世界的にも非常にまれでして、研究者によると、熊本のササゴイのこの成趣園のが世界でも最高レベルだと、これほどの巧みな技をもっているのは世界中にはないというふうに思っておりますので、そういうのが毎年みることであります。これはゾウの池とか、ああいったところでもやっておりますので、非常に面白いと思います。

また、観察小屋までの経路を隠すというのは、先ほどもいいましたけれども、英語でいうとハイドというんですけど、ハイドって隠れるっていう意味ですよ。隠れずにどんどん人間が行ったら鳥は逃げてしまうに決まっているにも関わらず、そういう観察小屋っていう名前ですけど観察はできないですね。人間がどんどん行って、栈橋みたいなところを行っているその間に全部逃げてしまって、観察小屋に到着したところには何もいないという、非常に残念な施設をなぜつくるのかなと私は思う。だいぶ言ったんですけど、つくっただけで何にもならないと、そういう残念な話なんですけれど。外国なんかには立派なハイドがあって、ほんとに隠れていくんですよ、地下をもぐっていくんですけど、その行った先に小屋があって、そうするとカモたちがすぐ目の前にたくさんいて、そういうのをみて子ども達が非常に喜ぶとかあるんですけど、江津湖の場合、何にもならんというか、何のためにつくったのか全くわからないというようなそういう話です。ということで、ここに書いてあることですけど、以上です。(坂梨委員)

- ありがとうございます。観察小屋のほうはこの施設でしょうか。(皆川部会長)
- つくったのは県がつくったんです。(坂梨委員)
- 県がつくって今は市で管理しています。(東部土木)
  
- カモが何羽いたのですか。(皆川部会長)
- 1万羽超えていましたね。(坂梨委員)
- 一番最初にも問題と言われていたことはなんですか。(皆川部会長)
- 江津湖にくるカモが周辺の畑にいて麦を食害するんですよ。それでカモを撃ち殺せという話があがって、私学生だったんですけど、市役所とか県庁に行って、要望書とかも出して、丸く収まったんですけど、夜中に調査に行くと、たしかに麦畑でカモが食ってるんですね。だいぶ問題になって、議会とかでもカモも撃ち殺せとかになっていた。(坂梨委員)
  
- 他にありませんでしょうか。ありがとうございました。(皆川部会長)
  
- 続けて、水と緑ワーキンググループさんからお話をお願いします。(事務局)

●まず補足で、ごみ拾いなどを行っているのではなくて、さっき出ていた江津花壇跡や湧水地の外来水生植物を抜いて、そこの保全をするという、これは「ゆうすい会」という団体でしています。私は保全だけすればいいというふうに思っていないで、私のテーマのひとつなんですけれども、美しい風景の見せ方というのがありまして、手が入っていないようにみせる手の入れ方が問題なんです。それから外来の水生植物が生い茂った中で、ヒメバイカモが消えてしまっていたんです。それで外来種をとって、今だとノハカタカラクサとか、そんなのがほんとに繁茂していて、それをとると中からひょろっと、一株くらい出てくるんですね。それとの飽くなき闘いをやっていると、少しずつ増えてきて、それをみるのが楽しみで、「私のヒメバイカモ」と呼んでいます。

また、小学生を対象にする観察会というのは、10年くらいやっていますけれど、もともと私の活動というのは、地下水を保全するという活動があって、熊本の地下水を飲みつづけたいがテーマです。それを30何年かやっていますので、自分がやってきたことを、いつまでも自分がやるのではちょっと無理だなと思ったので、次の世代の子ども達にそれを託して、大人になったらやってもらおうというのが観察会のねらいです。ですから、江津湖で観察したら、水はどこからくるのかなって上流域に行くという、必ず保護者が来ますので、どっちかという保護者に知ってほしいというのがあるんですけど、その農産物を買って、地下水と農産物の関係と、地下水の循環っていうのも、ほんとにささやかなんですけど、それをしていくと、熊本県産の農産物を買おうというふうに変っていくのでやっています。地下水を守るためにはという活動が必要か考え、子ども達の観察会に広がりました。そして、最近は生物多様性といういい言葉が出て来て、生物多様性という中に、生態系の保全というのは、もちろん大きなテーマなんですけれども、生物多様性の恵み、生態系サービスのほうを私は伝えていこうと思っていて、農産物を食べるのもそうですし、それから文化、和の色とか、そういうのはみんな自然のものがうたわれている。江津湖にはたくさんの歌碑があって、これも自然を詠んでるでしょっていうふうに、生物多様性の恵みの部分っていうのはほんとにたくさんあって、私達の暮らしそのものがつくられていくものなんだよっていうことを伝えています。仲間内で集まると、江津湖のビジターセンターがほしいと話しています。大げさに言えば、市民の口癖です。ビジターセンターができるとしたら、この風景に溶け込むような素敵なビジターセンターがほしいというふうなことを言っています。それから江津湖の水を守ると一言でいうけれども、上流からのつながりが大事なので、その協働の形がみえるような形で、対策がとれていったらいいと思います。特に、緑化フェアのときにそういう活動があって守り続けているんだと伝えられればいいというふうに思っています。以上です。(大住委員)

●ありがとうございました。阿蘇があるから江津湖があるんで、その恩恵を受けているっていうことをどれくらいの方が知っているのかと思います。そのつながりがわかるような長期的な目標も必要ですね。江津湖の水位が下がってきている話もありますし、人為的に水位が水門により制御されているということもあります。キタミソウは水位変動の中で生きている植物ですが、そういったことと、里っていう話がでてきたと思うんですけど、結局江津湖は自然のものだけでなく、いろんな人との関わりの中で、文化や色々なものが培われていて、トータルで守っていかなければならないってことのひとつのシンボルだっていうふうに思います。長期的な目標の中には、江津湖のみならず、阿蘇を含む流域をどうしていくかも重

要になってくると思いますので長期的な目標にしっかりと明記していけたらと思います。また、人との関わり合いをどうするか、たとえば人が入ってきてしまうと、生物が生息できないため、人が入らないゾーンについても重要だということができましたが、そのような点も踏まえたゾーニング計画もこの会から出していけたらと思います。何かコメントがございましたら。行政の方、いかがですか。(皆川部会長)

●先ほどお話しされたビジターセンター、江津湖にビジターセンターがあったらいいなといわれましたね。私も、熊本市民がすごく大切にしていってほしいもの、それは熊本城と江津湖、熊本城には熊本城調査研究センターというものがあるんですね、なんか江津湖を包括的に扱うような江津湖調査研究センターというものがあるのもいいんじゃないかなと前から思っておりまして、なんかいいなって思いました。すみません、感想だけです。(博物館)

●長期的に、すぐは難しいと思いますけれども、やっぱりメニューとしてあげておくと、今後何か予算が付いたときに整備が実現するので提案は重要です。先週江津湖に行った際にも、高校生が川に入って水遊びをしていました。親子もたくさん水遊びをしていました。江津湖はほんとに市民の宝だなと思いました。昔に戻すのは難しいと思うんですけども、今なら保全、復元でき可能性があります。これをチャンスにいろいろ具体的な目標とメニューを出していきたいと思いますが、それについて課題等の補足や、今後こうしていきたいとか、ございましたら、ご意見を皆様からいただきたいと思いますが、いかがでしょうか日頃から河川公園整備課さんとか、ずっと管理されていて、今どういう状況にあるとか、いかがですか。(皆川部会長)

●今、ひとつ私が見受けられるのは木製関係の施設です。先ほどの観察所にしてもベンチにしても、その腐食が激しいんですね。どうしても水辺ですので、その辺を考えた、木製だからいいんでしょうけども、擬木もいいのかと、将来どっちをとるのかということを考えていて、施設の整備管理を行いたいと考えています。(東部土木)

●今そういう時期、どういう段階でしょうか。たとえばこれから緑化フェアに向けて、整備が結構進んでいくということになるのでしょうか。(皆川部会長)

●そうですね、江津湖公園一体をひとつの会場として考えておりますので、今言ったようなベンチとかも含めてですけど、トイレもかなり老朽化していますので、そのような老朽化した施設を改修していきたいと考えています。また、遊歩道やサイクリングロードがあるんですが、照明灯があまり足りていないと感じます。かなり暗いところもありますので、それらも変えていきたいとは思っているんですが、照明灯も生物や植物に色々影響があらうかと思っておりますので、たとえばこのエリアはこういったものがいいと、ここは普通に人間が歩くようなものにしていく、そういった議論もこの場でできればなと思っております。(事務局)

●ゾーニングに関わってくるんだと思うんですけども、少し現況を補足しながら、議論していくのかなと思います。それと課題と今後について、目標設定とか、そういったことを次から固めていくことになると思うんですけども、課題でぜひ、今までできてきたものでももちろんいいのですが、こういう方向性でなど何かございましたら、ご意見をいただきたいと思っております。(皆川部会長)

●課題は後ほど、議題の4つ目でお話をさせていただければと思いますけれども、よろしければその前に議題の3つ目、今、それぞれの団体さんのお話をさせていただいたんですが、熊本市のほうでも考えています事業について、お話させていただきたいと思います。文化振興課のほうから1点目のお話をさせていただきたいと思います。(事務局)

～資料3説明～

●続けて、サウンディングについてということで、こちら資料はないんですけど、昨年6月に都市公園法というものが改正されております。これは何かと申しますと、公園の施設が老朽化していたり、公園ストックが増加しているといった現状がありつつも、行政側としてはなかなか管理するお金も厳しいといった状況があるといったことから、公園の整備管理について民間の力を入れていこうといったような Park-PFI という制度が創設されております。これは具体的には、今までたとえば公園内にありますカフェについて、カフェについては民間の方、それ以外のいわゆる公園施設については行政といった形で完全に分かれていたんですけども、たとえばカフェを整備して得られた収益を公園施設の整備管理費に賄うといったことで、公園も適切に管理しながら魅力あるものにしていこうといったような概要であります。昨年法改正が行われておりますけれども、すでに200を超える自治体が Park-PFI の導入に向けて動いているといった状況でして、今回水前寺江津湖公園一体でも導入に向けて検討を開始したいと考えており、まずは来月、サウンディングといった形で、民間事業者の方に業種業態は絞らずに、この江津湖公園一帯をベースとしてどういったことが考えられるのか、民間事業者の方でこのポテンシャルをどう活かせるのか、どういったご意向があるのかというものをまずはお聞きしたいというふうに思っております。そこで出てきましたご意見は、この環境部会やもうひとつのアクティビティ・マネジメント部会で検討を進めながら、方策の検討やその導入に向けた検討を開始したいと考えています。その検討を踏まえ、計画に位置づけていきたいと考えておまして、サウンディングを行うということで、お話をさせていただいたところでございます。議題3についての説明は以上となります。(事務局)

●ありがとうございます。今のご説明に関して何かご質問等ありますでしょうか。1点目が細川邸庭園の文化財指定について、2点目がサウンディングについてということで、何かありますか。(皆川部会長)

●今地図で見せていただいた旧細川邸庭園のところですけど、江戸時代に芭蕉苑も同じ時期ですか。(歌岡委員)

●詳しくは分かりませんが、私の知る限りでは、大正の初めにはあったことが蘆花の文章からわかります。ただし、漱石が見たかどうかはわかりません。(丸山委員)

●外来生物ですけど、私15年ほど前からカタツムリの外来種の研究をしていて、このちょうど庭園があるあたりに熱帯性のカタツムリがすんでいまして、暖かいからだろうと思うんですけど、どっからやってきたのかなと思って。おそらくこの庭ができたときに芭蕉なんかと一緒にきたんじゃないかと。北岡神社に行ったらあちらにもいました。それから、本妙寺のところにもおりました。おそらく熊本は古くから外来生物がすむ場所だったんじゃないかと。



いかと、ですから全然文化財の価値にケチをつけるつもりでもないんですが、その頃からそういう生き物の世界だったということで、関連としてすみません。(歌岡委員)

●ありがとうございました。他にございませんでしょうか。(皆川部会長)

●続けて、議題4についてよろしいでしょうか。次回の部会についてというところなんですけれども、今おられるメンバーさん、それぞれの所属を代表してこられているというところで、今後いろんな議論を深めていく上で、資料4で調査票という形で、皆様に事前に調査させていただきたいと考えています。こちらを次の部会の2週間前くらいに私のほうにいただいて、それでまとめた上で、今後の部会を開催するといったような流れに、今後させていただきたいというふうに思っております。たとえば次回でありますと、今日いろいろなお話をしたところですけども、まだまだ不足するところもあるかと思っておりますので、今日の意見を踏まえた上で、江津湖でこういったゾーニングができるのか、まだまだ不足するものは何なのかといったご意見をいただきたいと思います。また、今日のご意見を踏まえて、今後、長期の計画を見据えていく上で、こういった課題があるのかを議論していきたいと考えております。今日はこの調査票を各自お持ち帰りいただいて、各所属でお話いただいて、こちらをお出しいただければというふうに思っております。また、部会は月1で開催させていただきたいと思っておりますので、できれば定例的に第何何曜日の何時からといった形でさせていただきたいと考えていますので、皆さんからのご意見をいただければと思います。(事務局)

●今お話いただいて、調査票ということで、こういうふうにご提案があったんですけども、これについていかがですか。(事務局)

●これをメールで添付していただければと思いますが。(坂梨委員)

●はい、そのような形でさせていただきます。(事務局)

●たぶんそのほうが、ちょっと今の話を伺った限りだと、これでは狭くて入らない、ちょっと無理かなって思いますので、メールで、それと事務局さんをお願いしたいのですが、長期的な目標についても書くところをつくったほうがと思います。そうすると次回、2週間後いろいろなご意見が抽出できるのかなと思います。今日はいろいろ課題を示していただいたり、今後どうしていったらいいかというところまでお話をいただきましたが、長期的な目標の項目を増やしていただいて、メールでお送りするっていう形でいいかなと思います。(皆川部会長)

●あわせて地図もデータで送っていただくと、この地図でかまいませんので。(田畑委員)

●はい。(事務局)

●日程は遅い時間をお願いしたいです。(田畑委員)

●たとえば何時以降って具体的にいかがでしょうか。(皆川部会長)

●できれば17時以降で。難しければ少しでも。(田畑委員)

●行政の方とかは調整が必要なのかもしれませんけれども、一応ご意見ということで。他に日程調整についてご意見ございますでしょうか。(皆川部会長)

●この場ではなかなか決まらないと思いますけれども、次回についてはまた個別に調整させていただく中で、ご意見をお聞かせいただきたいと思います。思っております。(事務局)

- 今日の課題を踏まえて、次にはご意見いただいたものを最初にまとめてさせていただいてから議論がスタートということになるかと思えます。今日の議論で何か言い残した事等ありましたら、この場でいただきたいんですけども。たぶん今日の結果を受けて、スケジュール的な項目も変わってくるかもしれないんですけども、何かないでしょうか。では事務局にお返しします。(皆川部会長)
- 皆川部会長議事の進行ありがとうございました。皆様方におかれましては、活発なご審議をしていただきましてありがとうございました。本日の内容を踏まえまして、まずはそれぞれのご意見を踏まえたベースとなる図面を作っていきたいと思っております。次回の会議ではそれをもとに議論を進めていけたらと思っております。皆様方からさらなる情報のご提供をお願い申し上げます。また、先ほど説明しましたとおり、調査票を出していただきたいと思っております。また、後日お気づきの点がありましたら、公園課のほうにご連絡いただければと思っております。それでは以上をもちまして、水前寺江津湖公園利活用・保全推進協議会 環境部会を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。(事務局)